

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03442

研究課題名(和文) フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析

研究課題名(英文) Contrastive analysis of interlanguages of French, Portuguese, Japanese and Turkish

研究代表者

川口 裕司 (Kawaguchi, Yuji)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20204703

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトでは、フランスの国際プロジェクトPFCで培われてきた調査プロトコルを基盤として、ポルトガル語、日本語、トルコ語に関して、独自の調査項目を開発した。調査は6つのタスクからなる。(1)単語反復タスク、(2)単語読み上げタスク、(3)テキスト朗読タスク、(4)インタビュー・タスク、(5)自由談話タスク、(6)作文タスクの6項目である。4年間でそれぞれの言語について学習者言語データを収集することができた。こうして構築された学習者言語コーパスを母語話者の話しことばデータと対照分析し、1)音声・韻律特徴、2)語彙的特徴、3)談話標識について分析を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、これまで学習者言語コーパスは、主に英語や日本語を中心に個別に構築されてきた。本プロジェクトでは、フランス語、ポルトガル語、トルコ語、日本語に関して、共通の調査プロトコルを採用することで、学習者言語コーパスを言語横断的に分析できるように工夫した。また学習者言語コーパスをWeb上でデータベース化することで、本科研の関係者あるいは他の研究者にデータの提供が可能になった。さらに、今後、本学習者言語コーパスの分析結果を言語教育等に活用することが可能になれば、社会的にも意義のある研究となるであろう。

研究成果の概要(英文)：In this project, we developed our original survey questionnaires for Portuguese, Japanese and Turkish based on the French survey protocol cultivated through the International Project PFC (Phonology of Contemporary French). The survey is composed of six different tasks: (1) Repetition task of word list, (2) Reading task of word list, (3) Text reading task, (4) Interview task, (5) Free conversation task, (6) Composition task. We have collected learner language data for each language over four years. The learner language corpus constructed in this way was analyzed by contrasting it with the spontaneous conversation data of native speakers. The research was conducted from several viewpoints, 1) phonetic and prosodic features, 2) lexical features, and 3) discourse markers.

研究分野：言語学(フランス語、トルコ語)

キーワード：言語コーパス コーパス言語学 中間言語

## 1. 研究開始当初の背景

本プロジェクトは川口が長期間にわたって推し進めてきた一連の研究に基づいている。出発点は2007-2011年度のGlobal COEプログラムと2006-2010年度に採択された基盤研究A「多言語話しことばコーパスと学習者言語コーパスの構築に基づく言語運用の研究と教育への応用」である。同科研費の研究成果は<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/index.php?id=171>を参照。その後も2011-2015年度の基盤研究B「多言語コーパスの構築と言語教育への応用可能性」の補助金により、フランス語とトルコ語の話しことばコーパスをさらに充実してきた。その結果、両コーパスの規模はヨーロッパやアメリカ等における話しことばコーパスに肩を並べる規模になった。

対象言語	実施機関	語数
フランス語	パリ第3大学, エクスマルセイユ大学等	約206万語
トルコ語	マルマラ大学, イスタンブール大学等	約102万語

## 2. 研究の目的

申請者川口と分担者DETEYは、二つの文部科学省科学研究費助成事業、川口による2011-2015年度の基盤研究B、DETEYによる2012-2014年度の基盤研究Bに採択され、海外の教育研究機関と連携しながら、一方で系統的に異なるフランス語とトルコ語の話しことばコーパスを構築し、他方でフランス語と日本語に関する学習者コーパスを構築してきた。本プロジェクトは上記の基盤研究の成果を活用しつつ、フランス語と日本語を母語とする学習者を中心に据え、フランス語、ポルトガル語、トルコ語、日本語について、話しことばコーパスと学習者コーパスを対照分析し、(1)音声・韻律特徴、(2)語彙的特徴、(3)談話標識等が両コーパスでどのように表れるのかをコーパス言語学的アプローチを用いて分析し、最終的には研究成果の言語教育への応用可能性を模索した。

## 3. 研究の方法

研究の流れを図式化すると図1のようになる。フランス語とトルコ語に関しては、先行の科研費プロジェクトで構築された話しことばコーパスをさらに拡充した。というのも、母語話者の話しことばデータは、対照中間言語分析(Contrastive Interlanguage Analysis)のアプローチを用いて学習者言語と母語話者言語を対照分析するためには必須のデータだからである(STEP1)。

本プロジェクトによって構築される学習者言語データは、「IPFCプロトコル」と称する調査手法に基づいている。元来は音声・音韻分析を中心とする言語調査を行うためのプロトコルであるが、他の言語レベルの分析にも応用可能であるため、本プロジェクトでも採用することにした。

既に研究実績のある日本人学習者のフランス語に関しては、100名を超える学習者言語データの蓄積がある。本研究では、日本語、トルコ語、ポルトガル語について、フランス語をモデルとした独自の調査項目の作成が必要であった(STEP2)。本プロジェクトでは「IPFCプロトコル」を土台とした6つのタスクを設定した。(1)単語反復タスク(フランス語:94語,ポルトガル語:90語,日本語:112語,トルコ語:70語)。(2)学習者に困難が予想される単語の読み上げタスク(フランス語:61語,ポルトガル語:73語,日本語:35語,トルコ語:50語)。(3)テキスト朗読タスク。A4程度の短いテキストを読み上げる。(4)インタビュー・タスク。母語話者が12の質問を行い、学習者がそれに答える。(5)自由談話タスク。学習者2名が自由に話題を設定して約15分話し合う。(6)作文タスク。あるテーマについて200語程度の短い作文を書く(STEP3)。



図1

## 4. 研究成果

### 学習者言語調査プロトコルの開発

上記のタスク調査項目は本プロジェクト固有の研究成果と言えるであろう。各言語の調査項目は、音声・音韻論を専門とする海外研究者の協力を得ながら、2016年度から2017年度の初頭にかけて開発された。その際に、ポルトガル語はパリ第8大学のJoaquim Brandão de CARVALHO教授、日本語は斎藤純男(当時東京学芸大学教授)、トルコ語はボアジチ大学のAshi GÖKSEL教授から援助を得ることができた。

### 学習者言語コーパスの構築

情報班の梅野は、学習者データを集積し、アクセスを許可された者が研究目的でデータを利用し、話者情報を得るためのサイトを 2018 年度に開発した。図 2 <http://www.coelang.tufs.ac.jp/interlang/> アクセス制限有。

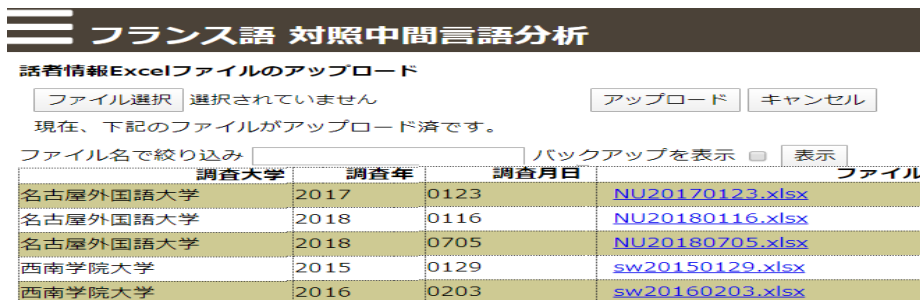


図 2

プロジェクトの全期間を通じて収集できた学習者言語データは以下の通りである。

学習言語	実施機関	学習者数
フランス語	東京外国語大学, 西南学院大学, 名古屋外国語大学	79 名
日本語	東京外国語大学, 西南学院大学, 名古屋外国語大学, 台湾大学, 開南大学, 銘傳大学, INALCO, パリ第 7 大学	52 名
トルコ語	東京外国語大学, INALCO	13 名
ポルトガル語	東京外国語大学, 上智大学	5 名

このうち対照中間言語分析が行われた、フランス語、日本語、トルコ語は、一部のデータについて文字転写が行われた。音声データと文字データの同期には Transcriber 1.5.1 が用いられた。図 3 は日本人トルコ語学習者の自由談話である。



図 3

### 学術的成果

顕著な学術成果としては、2017 年に DETEY と川口が、フランスの CLÉ International 社から La prononciation du français dans le monde Du natif à l'apprenant, S. Detey, I. Racine, Y. Kawaguchi, J. Eychenne (eds.) (図 4) を出版したことがあげられよう。同書は世界のフランス語学習者にみられる様々な音声特徴を言語別に解説したもので、日本語とトルコ語を母語とするフランス語学習者の項目を DETEY と川口が分担執筆した。また 2019 年には、『フランコフォンの世界 コーパスが明かすフランス語の多様性』, 川口裕司, 矢頭典枝, 秋廣尚恵, 杉山香織, 三省堂 (図 5) を出版した。同書は本科研費プロジェクトの親プロジェクトとも言うべき、PFC プロジェクトを概観した著作 Variétés du français parlé dans l'espace francophone, S. Detey, J. Durand, B. Laks, C. Lyche, Ophrys, 2010 を翻案したものである。

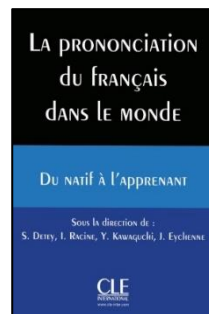


図 4

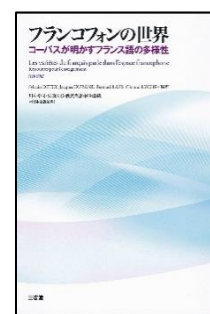


図 5

本プロジェクトでは、学習者コーパスを母語話者データと対照分析することで、(1)音声・韻律特徴、(2)語彙的特徴、(3)談話標識についてそれぞれ分析を行う予定であった(図 1 の STEP4)。その当初の目標はほぼ達成されたと考える。4 年間で行われた研究とその成果について以下に述べる。

フランス語学習者コーパス班は、分担者の人数が多く、複数の領域にわたる研究がなされた。まず、音声・音韻レベルについては、DETEY がフランス語学習者コーパスに見られるリエゾン現象を研究し、成果を Corpus 15(2016)に掲載した。川口は院生協力者とともに、フランス語母語話者のテキスト読み上げタスクにおけるリエゾンの変異について分析し、成果を Flambeau 44 (2019)で公刊した。近藤は、フランス語学習者の発話に見られる社会言語学的特徴について分析を行い、『外国語教育研究 20』(2017)に論文を発表した。近藤はまた、教科書の音声規範が学習者に与える影響に関しても研究し、New Sounds the 9th International Symposium on the Acquisition

of Second Language Speech 2019 で国際会議発表を行った。

語彙レベルでは、杉山がフランス語学習者の語彙について、主に受容語彙知識の観点から研究を行い、成果を『外国語教育研究 21』(2018)および *Revue japonaise de diadactique du français* 30 (2018)に発表した。

談話標識に関しては、杉山が学習者の用いる *c'est* について分析し、結果を Association for French Language Studies Conference 2019 で発表した。秋廣は、談話レベルにおいてみられる談話標識について、母語話者と学習者の両言語データを分析し、研究成果を Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference 2018 で報告した。さらに *après* の語用論化現象を分析し、Xe Journée Internationale de Linguistique de Corpus で成果報告を行った。

日本語学習者コーパス班は、海野が院生協力者とともに、日本語学習者の音声、とくにディフレーションと呼ばれる現象を研究し、国内外の学会で複数回発表を行い、成果を『外国語教育研究 21』(2018)に発表した。秋廣は日本語の「から」とフランス語の *parce que* を対照分析し、研究成果を SHS Web of Conference 27 (2016)に発表した。近藤も院生協力者とともに、日本語学習者の接続助詞「けど、から」等について分析を行った。

トルコ語学習者コーパス班は、川口が一人で研究を行っているため、当初の2年間は話しことばコーパスの整備と調査項目の決定に時間をとられた。2018年から本格的な研究に着手し、とくに学習者にみられる *r* 音の変異に関して学会報告を行い、『外国語教育研究 22』(2019)に論考を発表した。またトルコ語学習者が用いるトルコ語の特徴についても分析を開始した。

ポルトガル語学習者コーパス班は、分担者であった鳥越が科研費期間の途中で、在外公館として海外赴任することになり、黒澤が一人で研究することになった。さらに黒澤が役職者に任命されたため、ポルトガル語は、当初計画のうち、調査項目の決定と若干の学習者言語データを収集するにとどまった。

#### 海外協力者による講演・会議

上述のように、調査項目を決定する際には、Joaquim Brandão de CARVALHO 教授、斎藤純男教授、Aslı GÖKSEL 教授から様々な助言やコメントを得ることができた。それとは別に、各年度に国内外の研究者を招聘し、講演会およびワークショップを開催した。以下に列挙する。

2016 年度	ワークショップ 言語コーパス：言語教育への応用可能性 於東京外国語大学 Emanuela CRESTI (フィレンツェ大学教授), Massimo MONEGLIA (フィレンツェ大学教授), 藤村 逸子 (当時名古屋大学大学院教授) 講演会 コーパスに基づくフランス語研究 於京都外国語大学 Annie BERTIN (パリ西大学ナンテール教授), Frédéric SABIO (エクス・マルセイユ大学教授) 講演会 The unavoidable role of prosody in configurationality: Turkish as a case study Aslı GÖKSEL (ボアジチ大学教授) 於西南学院大学
2017 年度	講演会 La dialectologie en France aujourd'hui 於東京外国語大学 Elisabetta CARPITELLI (グルノーブル・アルプ大学教授) Research Workshop : Linguistique française et corpus 於早稲田大学 Lionel FONTAN, Maxime LE COZ, Sylvain DETEY, Hava Bat-Zeev SHYLDKROT 講演会 Variation in English pronunciation : contemporary trends 於東京外国語大学 Jacques DURAND (トゥールーズ大学名誉教授) 講演会 Rédiger une grammaire historique du français : problèmes et méthodes 於京都外国語大学 Bernard COMBETTES (ロレーヌ大学名誉教授)
2018 年度	国際ワークショップ 言語コーパスと学習者言語をめぐって 於東京外国語大学 大島 弘子 (パリ第7大学准教授)
2019 年度	International Workshop : Contrastive Interlanguage Analysis : French, Japanese, Turkish Variations in the First Language and Interlanguage 於東京外国語大学 Suzanne ROMAINE (ハワイ大学教授, 元オックスフォード大学教授)

また4年間で9回の科研費研究会を開催した。詳細については <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/index.php?id=312> を参照されたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 DETEY Sylvain, RACINE Isabelle	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 Learning to read liaisons in French as a Foreign Language: a longitudinal study of beginner learners in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language, Interaction, Acquisition	6. 最初と最後の頁 96,116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 KAWAGUCHI Yuji	4. 巻 22
2. 論文標題 Pronunciation of phoneme /r/ by Japanese learners of Turkish	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JAFLE Bulletin	6. 最初と最後の頁 247, 260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 BARCAT Corentin, KAWAGUCHI Yuji	4. 巻 44
2. 論文標題 Les variations phonétiques des francophones en lecture de texte Analyse des liaisons chez 8 locuteurs	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Flambeau	6. 最初と最後の頁 103,117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 SUGIYAMA Kaori	4. 巻 30
2. 論文標題 Analyse de la compétence lexicale dans la compréhension écrite des apprenants japonais en français	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Revue japonaise de didactique du français	6. 最初と最後の頁 502,514
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 SUGIYAMA Kaori	4. 巻 13
2. 論文標題 Auto-evaluation : outil pour la motivation ?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Revue Japonaise de Didactique du Francais	6. 最初と最後の頁 228,241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山香織	4. 巻 21
2. 論文標題 フランス語初中級学習者の受容語彙知識	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 39,53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 AKIHIRO Hisae	4. 巻 1
2. 論文標題 Discourse function of apres in French informal conversation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistic Conference	6. 最初と最後の頁 21,28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 布村猛、海野多枝	4. 巻 21
2. 論文標題 上級学習者と初級学習者の日本語音声 - ディフレーシングの生起に注目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 91,104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Detey Sylvain, Racine Isabelle	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 Towards a perceptually-assessed corpus of non-native French: the InterPhonology of Contemporary French (IPFC) project illustrated with a longitudinal study of Japanese learners' /b-v/ production	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Learner Corpus Research	6. 最初と最後の頁 223,249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤千秋, ファール・エロディ, 川口裕司	4. 巻 20
2. 論文標題 初級フランス語におけるスピーキング能力の可視化 タスク評価法と学習ストラテジーの観点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wataru Takahashi, Tae Umino	4. 巻 1
2. 論文標題 Out-of-Class Extensive Reading in Japanese as A Second Language: Enhancing Learner Autonomy Beyond The Classroom	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 CLaSIC 2016 Proceedings	6. 最初と最後の頁 330-345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋巨, 海野多枝	4. 巻 19
2. 論文標題 第二言語学習における授業外多読活動の可能性 日本語多読セッション参加者へのインタビュー調査を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Isabelle Racine, Sylvain Detey	4. 巻 15
2. 論文標題 La liaison dans un corpus d'apprenants : le projet <<Interphonologie du Français Contemporain >> (IPFC)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Corpus	6. 最初と最後の頁 237-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 杉山香織	4. 巻 1
2. 論文標題 初級フランス語学習者における発話能力の特徴 - CEFR-Jに基づくタスク会話と自己評価の分析から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 パロールの言語学 : フランス語学研究 (日本フランス語学会)	6. 最初と最後の頁 85-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisae Akihiro	4. 巻 27
2. 論文標題 Parce que et kara, Etude contrastive entre français et japonais basée sur des corpus oraux	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 SHS Web of Conference 27	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1051/shsconf/20162714002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 SUGIYAMA Kaori
2. 発表標題 L'utilisation de "c'est" en tant que marqueur discursif chez les apprenants japonais en français
3. 学会等名 Association for French Language Studies Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 杉山香織
2. 発表標題 フランス語学習者のテキスト読解における受容能力の経年変化
3. 学会等名 外国語教育学会第23回研究報告大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤野里
2. 発表標題 フランス語教科書におけるリエゾンとフランス語学習者のリエゾン
3. 学会等名 外国語教育学会第23回研究報告大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KONDO Nori
2. 発表標題 Phonetic Norm in French L2 Textbooks and Its Effect on L2 Learners' Speech Competence - The Case of French Liaison
3. 学会等名 New Sounds the 9th International Symposium on the Acquisition of Second Language Speech (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 AKIHIRO Hisae, LAYAL Kanaan-Caillol, SKROVEC Marie
2. 発表標題 La pragmatization de apres a l'oral : une approche micro-diachronique
3. 学会等名 Xe Journee Internationale de Linguistique de Corpus (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋廣尚恵
2. 発表標題 フランス語の談話標識と非流暢性 インタラクティブなコンテキストに応じて拡大する用法, その学習への示唆
3. 学会等名 日本語音声コミュニケーション学会・日本語プロフィシェンシー研究学会 第2回合同大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤玲子, 清宮貴雅, 川口裕司
2. 発表標題 日本人フランス語学習者の自由会話におけるonの一考察
3. 学会等名 外国語教育学会第22回研究報告大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川口裕司
2. 発表標題 日本語を母語とするトルコ語学習者におけるR音について
3. 学会等名 外国語教育学会第22回研究報告大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 DETEY Sylvain, RACINE Isabelle, KAWAGUCHI Yuji
2. 発表標題 Dix ans d'IPFC : breve retrospective et perspectives de developpement
3. 学会等名 Journee Floral-(I)PFC-IPFC 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAWAGUCHI Yuji
2. 発表標題 Projet d'adaptation en japonais du volume "Les varietes du francais parle dans l'espace francophone"
3. 学会等名 Journee Floral-(I)PFC-IPFC 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒澤直俊
2. 発表標題 ポルトガル語におけるCEFRの適用：機能シラバスから文法シラバスへ
3. 学会等名 外国語教育学会第22回研究報告大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YAMAGUCHI Nami, SUGIYAMA Kaori
2. 発表標題 Les modificateurs du SN dans la production ecrite chez les apprenants japonais en francais
3. 学会等名 Colloque international 2018, Les nouvelles strategies de l'enseignement du francais : enjeux et innovations (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉山香織
2. 発表標題 フランス語学習者における受容語彙知識の経年変化
3. 学会等名 外国語教育学会第22回研究報告大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 AKIHIRO Hisae
2. 発表標題 L'emploi de apres en tant que connecteur - evolution et variation
3. 学会等名 50 ans de linguistique sur corpus oraux : Apport a l'etude de la variation (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 UMINO Tae
2. 発表標題 Study-Abroad in Japan in Pictures: Photographs as Data in Life-Story Narrative Research for Second Language Learning and Identities
3. 学会等名 CLaSIC 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 NUNOMURA Takeshi, UMINO Tae
2. 発表標題 Using metalinguistic knowledge in L2 instruction of Japanese prosody
3. 学会等名 CLaSIC 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤野里
2. 発表標題 ケベック州で出版されたフランス語教科書と話し言葉としてのケベック・フランス語の語彙的・統語的特徴
3. 学会等名 日本ケベック学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤野里
2. 発表標題 ケベック州で出版されたフランス語教科書にみられる社会言語学的特徴の反映の方法
3. 学会等名 外国語教育学会第22回研究報告大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ハルカ コシノ, 伊藤玲子, 関敦彦, 川口裕司
2. 発表標題 中級フランス語学習者によるテキスト朗読 経年的観察
3. 学会等名 外国語教育学会第21回研究報告大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 布村猛・海野多枝
2. 発表標題 中国語を母語とする学習者の日本語音声の特徴 上級と初級学習者の比較を通じて
3. 学会等名 外国語教育学会第21回研究報告大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yuji Kawaguchi
2. 発表標題 Par-delà la prononciation: trois aspects de la production chez les apprenants japonais du français au niveau faux-débutant
3. 学会等名 Table Ronde sur la prononciation des apprenants japonais de FLE, Congrès SJDF 2016 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yuji Kawaguchi
2. 発表標題 La structure prosodique reflète-t-elle la structure syntaxique ?
3. 学会等名 Le 4eme Colloque bi-annuel entre nos universites jumelees, <<Echanges culturels d'aujourd'hui : langue et litterature>> (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐藤千秋, ファール エロディ, 川口裕司
2. 発表標題 初級フランス語におけるスピーキング能力の可視化 タスク評価法と学習ストラテジーの観点から
3. 学会等名 外国語教育学会第20回研究報告大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 ハリ・スティアワン, 海野多枝
2. 発表標題 インドネシア語を母語とする初級日本語学習者の「-テイル形」の習得に関する一考察 「動作の持続」と「結果の状態」を中心に
3. 学会等名 2016年日本語教育国際研究大会(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Wataru Takahashi, Tae Umino
2. 発表標題 Out-of-Class Extensive Reading in Japanese as a Second Language: Enhancing Learner Autonomy Beyond The Classroom
3. 学会等名 CLaSIC 2016(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kaori Sugiyama
2. 発表標題 Utilisation lexicale chez les apprenants japonais du francais -analyse basee sur le corpus IPFC-JP
3. 学会等名 Le 4eme Colloque bi-annuel entre nos universites jumelees, <<Echanges culturels d'aujourd'hui : langue et litterature>> (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kaori Sugiyama
2. 発表標題 Table ronde: Le Centre Regional Francophone d'Asie - Pacifique (CReFAP) sur l'enseignement du francais en Asie - Pacifique
3. 学会等名 XIVe Congres mondial Federation Internationale des Professeurs de Francais
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秋廣尚恵
2. 発表標題 学習者話し言葉コーパスに基づく日本人フランス語学習者の複文構造の使用についての研究 フランス人母語修得の場合と比較して
3. 学会等名 外国語教育学会第20回研究報告大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hisae Akihiro
2. 発表標題 Parce que et kara, Etude contrastive entre francais et japonais basee sur des corpus oraux
3. 学会等名 CMLF2016
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 近藤野里
2. 発表標題 フランス語学習者の発話に見られる社会言語学的特徴
3. 学会等名 外国語教育学会第20回研究報告大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 DETEY Sylvain、DURAND Jacques、LAKS Bernard、LYCHE Chantal、川口 裕司、矢頭 典枝、秋廣 尚恵、杉山 香織	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 232
3. 書名 フランコフォンの世界	

1. 著者名 西山教行(監訳)、石丸久美子、大山万容、杉山香織	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 バイリンガルの世界へようこそ	

1. 著者名 杉山香織、野澤督、姫田麻利子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 168
3. 書名 コフレ - フランス語基礎単語集	



1. 著者名 大島弘子 (編) 秋廣尚恵、岩内佳代子、牛山和子、大島弘子、神山剛樹、黒沢晶子、砂川有里子、竹村亜紀子、中尾雪江、中島晶子、中村デロワ弥生、野田尚史、ジャン・バザンテ、東伴子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 フランス語を母語とする日本語学習者の誤用から考える	

1. 著者名 青木三郎・秋廣尚恵・渡邊淳也・ダニエル＝ルポー・守田貴弘・須藤佳子・ブヨ＝バティスト・稲葉梨恵・奥田智樹・田代雅幸・石野好一・藤村逸子・ドルヌ＝フランス	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 386
3. 書名 フランス語学の最前線 5 【特集】日仏対照言語学	

1. 著者名 Cosnier-Lafage Frederique, Kerkalli Mohamad, Kawaguchi Yuji, Maitre Marie-Julie, et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Department of French, Tamkang University	5. 総ページ数 230
3. 書名 Actes du Colloque International 2016 Echanges culturels d'aujourd'hui: Langue et litterature	

1. 著者名 Tyne Henry, Sugiyama Kaori, Carette Emmanuelle, Gaatone David et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Presses universitaires de Perpignan	5. 総ページ数 122
3. 書名 Le francais en contextes : Approches didactiques, linguistiques et acquisitionnelles	

1. 著者名 Sylvain Detey, Isabelle Racine, Yuji Kawaguchi, Julien Eychenne	4. 発行年 2017年
2. 出版社 CLE International	5. 総ページ数 264
3. 書名 La prononciation du francais dans le monde Du natif a l'apprenant	

1. 著者名 Yuji Kawaguchi, Helene Andreassen, Marie-Helene Cote, Sylvain Detey, Jacques Durand, Julien Eychenne, Anita Berit Hansen, Bernard Laks, Chantal Lyche, Dominique Nouveau, Elissa Pustka, Isabelle Racine, Sandra Schwab, Anne Catherine Simon, Jeff Tenant, Douglas C. Walker, et al.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 608 (491-502)
3. 書名 Varieties of Spoken French	

1. 著者名 川口裕司, 古賀健太郎, 菊池美里	4. 発行年 2016年
2. 出版社 駿河台出版社	5. 総ページ数 262
3. 書名 仏検2級準拠 頻度順フランス語単語集	

1. 著者名 川口裕司	4. 発行年 2016年
2. 出版社 IBCパブリッシング	5. 総ページ数 180
3. 書名 初級トルコ語のすべて	

1. 著者名 川口裕司	4. 発行年 2016年
2. 出版社 IBCパブリッシング	5. 総ページ数 189
3. 書名 初級フランス語のすべて	

1. 著者名 中田俊介, 川口裕司, 神山剛樹	4. 発行年 2016年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 160
3. 書名 音声の科学 音声学入門	

1. 著者名 Sylvain Detey, Graziani, J.-F., Nishiyama, N.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Editions des Archives Contemporaines	5. 総ページ数 160 (121-135)
3. 書名 Le Japon, acteur de la francophonie : enjeux interieurs, enjeux exterieurs	

1. 著者名 秋廣尚恵, 小田涼, 春木仁孝, 佐々木香理, 東郷雄二, 古川直世, 平塚徹, 田原いずみ, 大久保朝憲, 赤羽研三, 青木三郎	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 421 (47-84)
3. 書名 フランス語学の最前線 4	

〔産業財産権〕

〔その他〕

フランス語，ポルトガル語，日本語，トルコ語の対照中間言語分析  
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/index.php?id=312>  
 対照中間言語プロジェクト（非公開）  
<http://www.coelang.tufs.ac.jp//interlang/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	海野 多枝  (Umino Tae)  (00251562)	東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授    (12603)	
研究分担者	Detey Sylvain  (Detey Sylvain)  (00548927)	早稲田大学・国際学術院・教授    (32689)	
研究分担者	杉山 香織  (Sugiyama Kaori)  (00735970)	西南学院大学・文学部・准教授    (37105)	
研究分担者	梅野 毅  (Umeno Tsuyoshi)  (10722340)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・助手    (12603)	
研究分担者	秋廣 尚恵  (Akihiro Hisae)  (60724862)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授    (12603)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	近藤 野里 (Kondo Nori) (70759810)	名古屋外国語大学・世界共生学部・講師  (33925)	
研究分担者	黒沢 直俊 (Kurosawa Naotoshi) (80195586)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	鳥越 慎太郎 (Torigoe Shintaro) (20743511)	東京外国語大学・その他部局等・講師  (12603)	